

「脱ムダ」で市政を変える！ 市政改革を前へ、前へ  
小金井市議会議員／情報公開こがねい

# 週刊 渡辺大三 NEWS



【会派 NEWS】 2020(令和2)年 11月2日 週刊 vol.63

【ご意見ご要望はお気軽に】 〒184-0012 小金井市中町3-26-15-301

T 090-3345-6929 F 042-381-5074 watanabedaizou@gmail.com

公式サイト daizou.org (Twitter、facebook には公式サイトからアクセスできます)

## 西岡市長提出の昨年度決算(一般会計)

# 3年連続で不認定！

## 賛成6、反対17の大差 市長の市政運営に批判続出

10月6日、小金井市議会は、西岡市長が提出した昨年度決算を本会議で採決しました。

一般会計決算は、西岡市長の市政運営に批判が続出し、賛成6反対17の大差で「不認定」となりました。一般会計決算の「不認定」は、これで3年連続ということになります。

国民健康保険や介護保険などの特別会計はいずれも認定されました。

一般会計決算の認定に対する各会派各議員の採決態度は以下の通りでした。

○認定に賛成⇒みらいのこがねい(鈴木・村山・岸田・沖浦)、市民会議(齊藤)、改革連合(篠原)。

×認定に反対⇒情報公開こがねい(渡辺大三)、自民党信頼(遠藤・湯沢・吹春・清水)、公明党(宮下・紀・渡辺ふき子・小林)、共産党(板倉・水上・たゆ)、こがおも(白井・水谷)、ネット(田頭)、市民カエル(片山)、緑つながる(坂井)。

\*五十嵐議長(自民党信頼)は採決に加わらない。

\*「みらいのこがねい」は立憲民主党などで構成。

本会議での採決にあたって、各会派から、賛成討論、反対討論が行われました。情報公開こがね

い(渡辺大三)は、以下の内容で反対討論を行いました。

「認第1号 令和元年度小金井市一般会計歳入歳出決算の認定」について、情報公開こがねいは、認定に反対する立場から討論いたします。

反対の理由の第一は、平成27年度に西岡市長が就任して以来、市役所人件費が大幅に増えているからです。

決算年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響が発生する中、市職員のボーナス引き上げが強行され、また、市民にも議会にも知らせずこっそりと部長手当や課長手当が引き上げられるなどの事件もありました。この決算にはその引き上げの影響額が含まれており、まったく納得できるものではありません。

反対の理由の第二は、決算年度中におこなった庁舎及び福祉会館の基本設計に重大な欠陥があることです。

重大な欠陥とはすなわち、①建設費が高すぎること、②十分な面積のひろばが確保できないこと、③庁舎部分にのみ免震構造を採用し、福祉会館部分には採用しないこと、です。

設計を変更し、施工性を高めるなどの工夫をすれば、建設費が16億2000万円安く済み、その上で、十分な面積のひろばが確保でき、福祉会館部分にも免震構造が採用できます。

ただちに設計の抜本的な見直しに着手し、市民の理解を得られる事業に転換すべきです。

反対の理由の第三は、前回の市議選の際に、勤務先の福祉施設の個人情報盗み出して選挙準備に使用した候補者の後援会に、西岡市長が現金を供与していた事実が、決算年度に判明したからです。

しかも、市長が供与した現金の一部は、政治資金規正法に基づく収支報告が行われておらず、今般、事件が発覚した後になって、慌てて修正報告されています。それまでは「裏金」だったわけです。

市長による市議や市議候補の後援会への現金供与は事実上の「議決態度買収」であり、厳に慎むべきです。

反対の理由の第四は、歳入合計額の市民一人当たりの額が、多摩26市中18位となる中、社会福祉費は25位、老人福祉費も25位、保健衛生費は24位、教育費は26位と、十分な予算措置が行われていない点にあります。

難病者福祉手当は、市が誤った根拠で切り下げを行い、前年度対比で決算額が大きく減少しています。総体として切り下げにならないよう、すみやかな改善を求めるものです。

反対の理由の第五は、決算年度中に行われた市長選において、小金井市選挙管理委員会が、森戸候補陣営が適法に作成した印刷物に対して誤った指導を行い、当

該候補者と確認団体に刷り直しなどの損害を与えたにもかかわらず、いまだに賠償に応じようとしていないことです。

人に迷惑をかけたなら、謝罪の上、損害額をすみやかに賠償すべきです。

以上、個別には積極的に評価できる施策はあるものの、この決算は、市民常識に照らして、およそ認定できるような条件を具備するものではありません。行財政改革の徹底と、市政の正常化を切に願い、認定に反対するものです。

## 多すぎる議員定数問題

### 11/10、削減求める請願書を審査

小金井市議会の議員定数が、多摩26市中、人口が同じ水準の他市に比べて多すぎる問題で、市民団体(議員定数削減の会)が提出した「2減」を求める請願書が、11月10日の議会運営委員会で審査されます。審査のもようは、小金井市議会公式YouTubeでも中継されます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、市財政は今後5年間で60億円を超える減収が見込まれています(税收減で55億円、国からの消費税交付金の減で6億5000万円)。「週刊 渡辺大三NEWS」(第59号)でも既報のとおり、まさに「崖っぷち」の財政状態となります。

人口が同じ市に比べて、多くの市議会議員が必要だという合理的理由はまったくありません。他市並みのコスト削減努力が必要です。議会運営委員会が、市民団体が提出した請願書を採択するよう期待したいと思います。

## ◆渡辺大三略歴◆

1966年5月2日、岩手県水沢市(現:奥州市)生まれ。秋田県横手市、宮城県仙台市、山形県山形市を経て、9歳から小金井市在住。小金井市立本町小学校・小金井市立小金井第一中学校(桜町)、東京都立小金井北高等学校(緑町)、中央大学法学部を卒業。株式会社河北新報社(本社:仙台市)に就職し、新聞記者。衆議院議員秘書を経て、男性最年少の26歳で小金井市議選初当選(以降7期連続当選/最近4回の選挙はいずれも無所属で立候補)。

【現在】小金井市の地域政党「情報公開こがねい」共同代表。東京の地域政党「自由を守る会」幹事長。小金井市商工会参与。貫井北町商工振興会事務局長。中町親愛会相談役。中央大学学生会小金井支部副支部長。小金井北高等学校同窓会幹事長。